

令和2年度1学期は、新型コロナによる5月末日までの長期休校のため、オンラインによるホームルームや授業という異例の形で始まりました。さらに、運動部ではインターハイをはじめとする諸大会の中止、文化部でも演奏会や作品展の中止、全国総文のweb開催など、これまで経験のない、予想外の事態に翻弄された1学期となってしまいました。そして今、収束に向かったと思われていた感染拡大が再び増加の一途をたどり、われわれは、一旦緩めてしまった緊張感を再び高めることが、いかに困難であるかを目の当たりにしています。

新型コロナウィルスとの共存を前提とした「With corona」や「New Normal」といった言葉をよく耳にしますが、先の見えない不安や緊張、ストレスは気づかないうちに蓄積しています。心身の不調を感じたときは、積極的にわれわれにも相談してください。そして引き続き、学校生活において感染防止対策への協力をお願いします。特に、夏休み明けの学校祭は、生徒会や学校祭事務局のみなさんが、全校生徒のために、休校中から遠隔会議を開き、考えに考え抜いた企画です。ぜひ、感染予防に努めながら全校一丸となって取り組んで欲しいと思います。

ところで、みなさんは「尾根マツ 谷スギ 中ヒノキ」という言葉を知っていますか。山の谷にはスギ、尾根にはアカマツが生育し、中間はヒノキに適しているという意味です。

杉の木は比較的水分と栄養分に富む環境を好む傾向があるそうです。谷は水も十分あり、肥料も、山の斜面から流れてくる水に溶け込んでいます。そのため、養分、水分も簡単に取ることができるので、背は真っ直ぐ高くなります。しかし、その高さの割には、根は浅くて細いそうです。

では、生育には適さない山の尾根の杉にはどんな特徴があるのか。尾根の杉は、どちらかというと幹が太く、あまり背は高くなりません。尾根は雨が降っても、雨水はすぐ下の方へ流れていってしまい、土は乾きやすく、毎日強い風にさらされています。そのために杉は、根を太くして、深く広く張らなければなりません。でも幸いなことに、尾根には太陽の光がたくさん降り注ぐので、葉を幹の下の方まで茂らせておくことができ、十分な栄養を自ら作って、根や幹に送ることができます。

今年も7月3日以降、熊本県を中心に九州や中部地方などが集中豪雨に襲われ、甚大な被害をもたらしました。その被害状況を見ると、谷にある杉が折れたり、倒れたりしても、尾根の杉は、常に厳しい自然の環境に鍛えられていることで、倒れずに頑張ったものが多かったそうです。

「With corona」の今、辛いことや苦しいことも続くと思いますが、尾根の杉のように、厳しい条件を乗り越えてこそ、揺るぎないたくましい人間になるのだと思います。そのためにも3年生は進路を実現するための残り半年に、2年生は、学習は言うまでもなく、部活動や学校行事に、1年生はようやく慣れてきた高校生活に、しっかりと取り組んでください。

もちろん、われわれもみなさんをしっかりと支援していきます。特に、学校は授業が命なので、2学期以降もよりよい授業となるように努力していきます。

では、夏休みを事故なく安全に過ごし、8月17日の始業式でお会いしましょう。短い夏休みになりますが、疲れを癒やし、自分自身を見つめ直して、新たな一歩を踏み出す機会にしてください。終わります。